

### 没後 300 年 コレッリの魅力

2013 年はイタリアの作曲家コレッリの没後 300 年にあたります。作品数こそ少ないものの、コレッリの残したものは後の音楽家たちに大きな影響を与えました。コレッリとはどんな人物だったのでしょうか？



### アルカンジェロ・コレッリ Arcangelo Corelli (1653~1713)

中期バロック時代を代表する、イタリアの音楽家。教会などで音楽の手ほどきを受けたのち、13歳の時に当時イタリア器楽の中心都市であったボローニャに出て、ヴァイオリンや作曲の勉強に励んだ。ヴァイオリンの名手、名教師としても、バロック時代の器楽曲の発展においても、その功績は大きい。

#### 【バロック時代の器楽の発展】

ルネサンス時代まで音楽は声楽を中心に発展してきた。しかしバロック時代になると器楽はソナタやコンチェルト、組曲など独自のジャンルを生み出し、声楽に匹敵する重要性を持つようになっていく。このうちソナタは一般的にトリオソナタ（2 声＋通奏低音）とソロソナタ（1 声＋通奏低音）に分けられ、さらに楽章編成の点からみると教会ソナタ（緩－急－緩－急）と室内ソナタ（同一調または同主調の舞曲で構成）に分けられる。コレッリは 2 本のヴァイオリンと通奏低音のためのトリオソナタを教会ソナタ、室内ソナタのどちらの形式でも作曲し、併せて 48 曲を出版した。

また、合奏協奏曲（コンチェルト・グロッソ）は、バロック時代に用いられた音楽形式のひとつ。独奏楽器群（コンチェルティーノ）とオーケストラの総奏（リピーエーノ、コンチェルト・グロッソとも呼ぶ）に分かれ、2 群が交代しながら演奏する楽曲のことを指す。コレッリはトリオソナタの形式を踏まえながら作曲し、「合奏協奏曲集 作品 6」において合奏協奏曲を確立させた。のちにこの形式では、J.S.バッハが「ブランデンブルク協奏曲」を作曲している。

#### 【後の作曲家たちへの影響】

同じくイタリアでヴァイオリンのための音楽を多数作曲した A.ヴィヴァルディは、コレッリの後を受け合奏協奏曲を発展させている。F.クーランは「パルナッソス山、またはコレッリ讃」というトリオソナタを作曲した。トリオソナタの作曲における先輩コレッリへの賛美をこめた作品である。また、J.S.バッハはコレッリの作品 3 の教会ソナタの主題をもとに、オルガンのための「フーガ BWV579」を作曲している。コレッリの時代から約二百年後に活躍した S.ラフマニノフは「コレッリ（コレルリ）の主題による変奏曲」と題したピアノ曲を作曲した。これはコレッリの作曲した「ヴァイオリン・ソナタ作品 5」の終曲「ラ・フォルリア」をテーマにしている。

#### 【音楽を聴いてお楽しみください】

『コレッリ作品全集 1・2・3』キアラッパ (Vn)、アカデミア・ビザンチナ 請求記号：2S3.09-17

『F.クーラン：コレッリ讃 他』ガーディナー（指揮）、イングリッシュ・バロック・ソロイスト

請求記号：1S5.18

『J.S.バッハ：オルガン作品全集』アラン (Org) 請求記号：1H2.01-17 (BWV579 は 1H2.07)

『ラフマニノフ：コレッリの主題による変奏曲 他』アシュケナージ (Pf) 請求記号：1J4.70

最近受け入れた新刊・新譜から、おすすめの資料をご紹介します♪



## 【音源資料】

『バッハとイザイⅢ～新しい旅のはじまり』リン(Vn)、黒木岩寿(Cbs)

請求記号：3H7.35

ジュリアード弦楽四重奏団の第一ヴァイオリニストであるジョセフ・リンによる、J.S.バッハとイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集の第三弾。心が洗われるような、清らかな音楽である。300年ほど前の作曲家がどんな思いをもって作曲したのか、現在の私たちには推し量ることしかできない。しかし優れた演奏者は作曲家と聴衆の間に立ち、まるで作曲家から全てを受け取っているかのように、その音楽の素晴らしさを伝えてくれる。ジョセフ・リンはまさにそんな奏者で、彼自身や楽器を通して、バッハの作った音楽がそのまま私たちに提示されるように感じる。既にリリースされている2枚のアルバム（請求記号：3H1.54、3H2.65）も併せてどうぞ。

『コルンゴルト：死の都』ヴァイグレ(指揮)、フォークト(Ten)、パヴロフスカヤ(Sop)、ナギー(Bar),  
フランクフルト・ムゼウム管弦楽団 請求記号：3L9.68-69

コンサートでしばしば演奏されるアリア「マリエッタの歌」で有名なオペラ『死の都』。コルンゴルト 23歳の時の作品で、美しい音楽にあふれている。主役のテノールは、今話題のクラウス・フロリアン・フォークト。ボーイソプラノがそのまま成長したかのような曇りのない澄んだ歌声でありながら、かつ甘く端正な演奏で、オペラ全曲にわたって活躍している。フォークトと指揮者のヴァイグレの組み合わせは、今年4月に東京文化会館大ホールで行われる「ニュルンベルクのマイスターシンガー」でも実現する。

## 【図書】

『いまどきのクラシック音楽の楽しみ方—ツイッター演奏会日記 2010.4～2012.6』山田治生  
アルファベータ 請求記号：3.0-Y14-12

クラシック音楽を取り巻く環境は、昨今変化しつつある。「聴く」という行為一つをとっても、コンサートホールで実際に聴く、CDやレコードなどを通して聴くほかに、インターネットやiPodなどのメディアを使うこともできる。本書ではこのようなクラシック音楽の現状がまとめられ、読み手それぞれにさまざまな楽しみ方があることを示唆してくれる。巻末から横組で始まるのは、著者による音楽に関するツイートをまとめたもの。演奏会に対するコンパクトな感想は、読んでいて楽しい。

2013年1月発行 東京文化会館音楽資料室